

まほるば



弘前病院の理念

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います

第59号

2006年5月発行

『津軽地域病院連絡会議』が発足！

5月16日（火）に当院の地域医療研修センターにおいて「津軽地域病院連絡会議」の初会合が開かれました。この会議は、弘前、青森（浪岡地区）、黒石、平川、藤崎の5市町村の公立・民間25病院の院長がメンバーとなっており、当院院長から各病院への呼び掛けにより実現したものです。

自治体病院や民間病院では、様々なグループで会合を開いていますが、グループの垣根を越えた病院連携はこれまでありませんでした。

診療が専門化する中で、患者様のニーズに応えるためには、病院完結型から地域完結型への移行が必要であり、そのため各病院が一同に会して相互理解を深め、連携して問題解決を目指そうというものです。

当日は、各院長から病院のPRを兼ねて自己紹介があり、その後、会議の規約が制定され、会長には当院院長が、副会長には黒石市国民健康保険黒石病院の村田院長が選出されました。意見交換では、救急医療や医師不足、病院の機能連携などの問題が報告されました。

今後は、会議が年に1～2回開催され、テーマを決めて検討することになりました。

管理課長 齋藤 侯智



さくらまつり — “弘前の春” —



4月中旬肌寒い日が続き、開花が遅れた桜も、ゴールデンウィークを待っていたかのように美しい花を咲かせました。

弘前公園の桜は、一枝の花数も多く、手鞠のような花の塊をいっぱいにつけた木々は見応えがあります。42万人を超える花見客を数えた5月4日は、夜桜見物を楽しむ人で園内は大賑わいで、出店にも長蛇の列ができていました。また、この日は、無料シャトルバスの出る臨時駐車

場の利用者もずいぶん多かったようです。

さくらまつり期間中、「じょっぱれ弘前」と銘打って、参加5団体による春ネプタが運行されました。4月29日、5月2日の両日、土手町通りを優美なネプタが通り、沿道のたくさんのお見物客は、少し早いネプタ囃子に聞き入っていました。

桜が咲き、それが終わると津軽はりんごの花でいっぱいになります。春爛漫です。



庶務係 工藤 真淑

『こいのぼり』が舞った！



当院では、年間を通じて様々な行事の実施に取り組んでおり、5月は『こいのぼり』です。

こどもの日の2週間前からこどもの日の週末まで、病院玄関前の

ロータリー内の空に、8匹のこいのぼりを泳がせました。この行事は、一昨年から始まったものです。今

年は3回目とあって、関係者も手慣れたもので、アツという間にこいのぼりが空に舞いました。

今年は、雪の時期がずれ込んだせいか、なかなか暖かくならず、そのため晴れた日が少なく、青空の中でこいのぼりが舞ったのは数日間だけでした。

しかし、当院のこいのぼりは、子供の手に届くような位置で泳いでいますので、近くを通りかかった子供達は、こいのぼりの下で手を伸ばしている光景がとても印象的でした。

管理課長 齋藤 侯智

【市民講座】“より良い患者医師関係のために”



患者様と医師との関係は、時代とともに変化してきました。昔は医師は全能の神にも例えられ、黙って座ればピタリと当たるとばかりに、患者様が医師の面前に現れさえすれば医師は患者様の問題をすべて理解し患者様にとって最善の医療を施すことができると信じられていました。医師は技術を患者様に施し与えていました。この「施し与える」医療をパターンリズムと言います。パターンリズムは現在では「時代にそぐわなくなった前時代の遺物」と考えられています。その理由は、不都合なことがたくさん起きたからです。医師にすべてを任せただけに期待した結果が得られなかったりしたからです。予想外に患者様が死亡するようなことも起りました。これは結局、医師が患者様の「最善の利益」が何であるかを理解できないことがあるということと、患者様と医師との間で利害が対立することがあるという2点が要因

であると分析されました。こうして「患者の権利」という概念が生まれました。医療事故被害者の団体などが数多く組織され、患者様が自ら決定することを柱とするインフォームドコンセントを生み出しました。インフォームドコンセントは、患者様と医療者とが十分情報交換をして双方が同意できる医療内容を決定することです。最終的に決定するのは患者様です。セカンドオピニオンといって第三者の意見を聞くことも大事だとされました。こうして患者様の権利をもとに数々の医療裁判が起こされて患者様側が勝訴することも多くなりました。でもいつも対立して裁判ばかりというのも何かおかしいということから、もっと進化した概念が出てきました。それが「患者様も医療者も共同作業を行うチームメンバーである。」というものです。医療は共同作業です。患者様と医療者とが「一緒にいる。」のが医療の基本です。同じ方向を見つめながら「最後までよろしく」とお互いと言えるようなチーム感覚を持つことがとても重要です。

小児科医長 神田 進

新採用者フォロー研修を終えて

今回の研修は、人の命に携わっている看護師として、緊急時に適切な処置を速やかに行えるように、挿管介助や心マッサージなど救急蘇生の方法や酸素吸入、吸引という緊急時に必要な技術を学びました。

心マッサージでは、自分の体重のかけ方や姿勢などをどのように直せば効果的に行うことができるのか改めて知ることができ、この研修で自分の技術にとってもプラスとなる経験をさせていただきました。これから実際に救急蘇生を行うとき、挿管介助など処置することだけに集中してしまうのではなく、周りの環境や状況に目を向け、患者様や家族が少して

も安心できるよう細やかな気配りもできるようにになりたいです。また、今後、いつ、どのような状況においても自分自身が慌てずに落ち着いてきちんと対応するためには、日頃から必要物品や手順などをしっかりと把握しておくことが必要だと感じました。



西2病棟看護師 秋元絵梨子

看護の心をみんなの心に！



5月12日は「看護の日」です。看護の日は、ナイチンゲールの誕生日にちなみ、「看護の心をみんなの心に」というメインテーマのもと1990年に制定されました。看護の日をはさんだ一週間は、看護週間として各地で色々なイベントが開催されています。当院

でも玄関ホールにナイチンゲール像とお花を飾り、外来の患者様に“看護の日の由来”を書いたパンフレットとタオルハンカチなどのグッズを配りました。誰かの気持ちを想ってみる、それが「看護の心」。そして誰かを元気にする力です。患者様から「ありがとう」と笑顔で返していただき、私たちも元気になった一日でした。

看護師自治会長 福士 英子

外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (H18年5月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金
内科		人見博康	小沢一浩	人見博康	小沢一浩	小沢一浩
呼吸器科		山本勝丸	中川英之	中川英之	山本勝丸	中川英之
消化器科		佐藤年信 吉谷元	佐藤年信 中畑元	佐藤年信 吉谷元	中畑元 (吉谷元)	佐藤年信 中畑元
小児科		杉本和彦 野村由美子 (佐藤啓)	野村由美子 遠藤泰史	杉本和彦 神田進 (佐藤啓)	神田進 遠藤泰史	野村由美子 杉本和彦 佐藤啓
外科		山中祐治 坂本義之	高橋克郎 三上勝也	横山昌樹 山中祐治	横山昌樹 高橋克郎	三上勝也 坂本義之
整形外科	午前	柿崎寛 佐々木資成 近江洋嗣	柿崎寛 菅原卓	佐々木資成 田中大	佐々木資成 大鹿周佐	柿崎寛 田中大
	午後	/	/	/	/	柿崎寛
脳神経外科		/	/	木村正英	/	/
皮膚科	午前	鳴海博美 間山淳	鳴海博美 間山淳	鳴海博美 間山淳	鳴海博美 間山淳	鳴海博美 間山淳
	午後	/	●手術	鳴海博美	●手術	間山淳
泌尿器科		橋本安弘	橋本安弘	橋本安弘	橋本安弘	橋本安弘
産婦人科		真鍋麻美 工藤香里	佐藤春夫 工藤香里	真鍋麻美 工藤香里	●妊婦健診	佐藤春夫 真鍋麻美
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		黒田令子 阿部尚央	黒田令子 阿部尚央	●手術	黒田令子 阿部尚央	黒田令子 阿部尚央
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	/	阿部由直 (午後)	/	/	/
麻酔科		●手術	工藤明	●手術	工藤明	●手術

※学会、出張などにより担当医師が変わる場合があります。

【みんなにわかる医学用語解説】(新シリーズ)

医師や看護師が使う「医学用語」について、今回からできるだけおもしろおかしく解説してみます。

こんな言葉が分からなかったというような言葉がありましたら、どしどし身近な看護師にお伝え下さい。伝え聞いた看護師は、どんな方法でも結構ですから、小児科の神田までお知らせ下さい。

初回の今回は、こんな言葉から、「いもあらい」。
えっ？医学用語にイモ洗いなんていう言葉があったのか・・・？そうなんです、あったんです。患者様をまとめてザルに入れてホースで水をばジャージャーかけて・・・おととと、待ってくれ、待ってくれ、そいつあちよっとおかしいだろう。じゃあ、あれかい、患者様をまとめて大鍋に入れて秋にやるやつ、山形で毎年やるとか言う、そりゃあ芋煮会(いもにかい)だろう。患者様を入れるんじゃないくて芋を入れるんだ芋を、だってお前、いもあらいだろう。なんなんだい、いったい。いやな、正確には「えむあーるあい」と言うんだよ。英語で書くと「MRI」さ。まぐねちっくれそなんすいめーじんぐを略したもの

さ。あーあー、それならこないだしてもらったよ。肩こりに効くってやつだろう？違うって、肩こりには効かぬーよう。頭でも胸でも腹でも足でも腰でも何でも良いんだ、体をあっちこちから切ってみようってやつなのさ。おいおいそれじゃ血が出るだろう。切るって言っても本当に切るんじゃないやねえよう。コンピュータの画面の中でやってくれるのさ。体の中が何でも見えちゃうんだぜ。お前さんの腹黒いのもたちまち分かってしまうって訳さ。おいおい、おりゃあ根は良い人間なんだぜ。そうかい、それじゃあちよっと「エムアールアイ」で肝つ玉(肝臓)を見てもらおうかい。

小児科医長 神田 進

【職場紹介】南病棟

南病棟は、機能訓練棟に向う長い廊下の途中にあり、目立たない病棟ですが、スタッフは20代から50代までの各年齢層の看護師が揃っていて、毎日笑顔で働いている明るい病棟です。また、「混合病棟」と表示されているとおり、耳鼻いんこう科・泌尿器科・皮膚科・眼科を含め8科以上の診療科からなる病棟です。年齢層も1歳の乳幼児から、90代のご高齢の方まで様々です。

簡単に診療科の紹介をします。耳鼻いんこう科は、慢性扁桃炎・副鼻腔炎、眼科は、白内障で手術予定の方が多く入院されますが、向こう2か月間は予約が入っている状態です。手術を考えている方は、早めの受診をお勧めします。特に耳鼻いんこう科は、7～8月は夏休みに入るため、お子様の手術をするには良い時期です。泌尿器科は、主に前立腺肥大症や前立腺生検の方が入院されます。入退院を繰り返される方もいますが、安心して治療に専念し

ていただける環境づくりに努めています。皮膚科は、带状疱疹や褥瘡の患者様が多く入院され、点滴治療と毎日の処置により早期に退院されています。

このように私達は、様々な診療科で多くの医師と接する機会が多いので、患者様に安全・安心な医療を提供するために、コミュニケーション良く働こうをモットーにしています。

南病棟は、2階・3階の病棟に比べると岩木山も見えず眺めは今一ですが、裏には桜の木があり、花壇にも花が咲いていて、春はとっても華やきます。是非一度のぞいてみませんか。看護師の「笑顔の花」でお迎えいたします。 看護師長 佐藤とし子



【ふるさと紹介】弟子屈町

本年4月から当院に勤務しています。小生の出身地は函館市ですが、今回の執筆に当たり、自分を成長させてくれた道東の「弟子屈町」を紹介させていただきます。

弟子屈町は、北海道の東側に位置し、摩周湖や屈斜路湖、阿寒横断道路、川湯温泉、硫黄山などの観光&温泉スポットが楽しめる町です。また、野生動物も非常に多く、ヒグマ、エゾシカ、キタキツネ、白鳥、オオワシ、オジロワシ、シマフクロウ、ちょっと離れてタンチョウヅルなど、動物園に行かなくても街の中に生き物たちがたくさん生息しています。特筆すべき点として、弟子屈町は人口よりも牛の数が多いい町です。(人口は9,000人を切っています。)気候は、夏が涼しく(8月にストーブを焚いたこともある?)冬はマイナス20℃以下の日が1か月以上も続きます。函館生まれの小生には、非常に厳しく感じたのが今では懐かしい思い出です。

食べ物の特産品は、大鵬せんべい(元横綱大鵬親方の出身にちなんで)、丹頂鶴のたまご(お菓子)、摩周メロン(赤肉メロン)、とうもろこし(非常に甘~い)、ビーフシチュー(川湯駅内)など道東に行く機会がありましたら、是非!ご堪能してみたいはいかがでしょうか?

また機会があれば、私のふるさと紹介パートⅡを執筆したいと思います。



写真/屈斜路湖周辺から見た秋の美幌峠。11月にはめずらしく虹がかかっていました。

栄養管理室長 篠島 良介

【今月の川柳】

造花にも 命が宿り 退院す

(山谷 繁)

休診日 風に逆らい 漕いだのに

(樋口 久晃)

初孫の 顔を見たさに 今日また

※ 掲載した作品は、広報誌編集委員会で選出したものです